

社会福祉法人翠燿会

平成 27 年度事業報告書

特別養護老人ホームグリーンヒル
グリーンヒル短期入所生活介護
グリーンヒル居宅介護支援事業
グリーンヒルデイサービスセンター
同上 サテライト南デイホーム
グリーンヒル訪問介護
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護
同上 サテライト勝田台
グリーンヒル八千代台訪問介護
グリーンヒル八千代台キッズルーム

障害児通所事業グリーンヒルキッズ

八千代市勝田台地域包括支援センター
介護予防支援事業

平成 28 年 5 月 19 日

社会福祉法人 翠燿会

活動方針総括案(報告並びに今後の課題と計画素案)

社会福祉法人 翠耀会
常務理事 津川 康二

高齢者の福祉介護を取り巻く状況は、昨年来内部留保問題に端を発し、社会福祉法人への課税問題、特別養護老人ホームの収益への批判等が繰り広げられ、現在社会福祉法人改革が進められ、又、地域包括ケアシステムの構築実現を目指して介護保険制度の改正、これらを踏まえた制度発足以来極めて厳しい介護報酬のマイナス改定がおこなわれました。これまでにない変革の時代を迎え、社会福祉法人改革、各事業の見直しが迫られています。

このような状況下にあつて、特に 2025 年にむけた指針(地域包括ケアシステム)を理解し、グリーンヒル、グリーンヒル八千代台の2拠点が、地域の福祉・介護サービスの中核となり、ご利用者が期待する、在宅を中心としたサービスから施設サービスまでの提供を実施いたします。

そのためには、この厳しい変化の時代にあつて「法人の安定した経営」「ご利用者、ご家族に満足いただけるサービスの徹底」「介護人材の確保と育成」「社会福祉法人の在り方の再構築」を中心に本年度も、ご利用者、ご家族、そして地域から信頼される法人を目指してまいります。

重点施策

- 1 介護保険制度改正に向けた対応～地域包括ケアシステム構築～
- 2 介護報酬改定の分析と対応
 - ・中重度の要介護者、認知症高齢者への対応
 - ・リハビリテーションへの推進
 - ・看取り介護の充実
 - ・口腔ケアの取り組みの強化
- 3 社会福祉法人制度改革への対応
 - ・社会福祉法人のガバナンス強化に向けての取り組みを行う。
 - (1) 経営組織のガバナンスの強化(29年4月から施行)
 - ・一定規模以上の法人への会計監査人の導入等
 - (2) 事業経営の透明化の向上(28年4月から施行)
 - ・財務諸表・現況報告・役員報酬基準等の公表等
 - (3) 財務規律の強化(29年4月から施行)
 - ・適正かつ公正な支出管理・内部留保の明確化・社会福祉事業等

への計画的な投資等

(4) 地域における公益的な取り組みを実施する責務

(28年4月から施行)

各事業所、ならびに地域において要検討。

- 4 人材の確保、育成、定着対策への一層の強化
 - ・職員のキャリアアップ制度充実 研修強化、外国労働者受け入れ研究
- 5 地域包括支援センターを含めた、予防給付(訪問、通所など)の地域支援事業移行の対応(29年4月から八千代市施行)
- 6 医療、介護の連携強化
- 7 認知症ケア、並びに生活支援サービス等への強化
- 8 高齢者の権利擁護、虐待防止に向けた強化
- 9 予算管理徹底と、総務課事業の再構築
- 10 特別養護老人ホームグリーンヒル建替え

【平成27年度 特養グリーンヒル 事業報告】

1) 目標稼働に対する実働状況

- ・平成27年度における特養・短期の年間平均稼働数は、114.5(平均稼働率95.5%)。目標値の118を下回る結果となり、早急な回復を図ります。
- ・特に下半期(平成27年10月～平成28年3月)については、稼働が漸減し、平均112.5(上半期116.5)となった。
- ・一方、入院延べ日数については低減を達成した。多職種連携(看護師・介護士・栄養士・機能訓練指導員・施設ケアマネージャー・医師・生活相談員)とセント Hp との連携の成果と考える。
- ・介護福祉士の有資格者保有割合、介護度4・5割合の目標値を達成。また、認知症日常生活自立度Ⅲ以上の割合も、目標値を達成したことにより、日常生活継続支援加算の算定を継続することができました。

2) 組織体制の強化

- ・生活向上委員会(看護・栄養・機能訓練・介護の多職種協働)による効果がみられ、ご利用者のADL向上に伴う職員のモチベーションアップがみられた。
- ・ホスピタリティケアの取り組みでは、職員同士で互いの言動に注意を払

い、ご利用者が安心できる声かけや対応が、徐々に浸透しつつある。次年度も継続し、取り組んでいきたい。

3) 平成 27 年度の総括

- ・退所理由の約 9 割が死亡退所。過去 3 年間では、平成 27 年度が最多。看取り介護は 3～4 割で継続実施しており、入院日数の低減に効果あり。
- ・新規入所（迅速な入所）では、入所待機者数および条件の一致が少なく、現場のケア体制も考慮すると、マッチングに苦慮する状況が続いている。病院からの受け入れを強化している。
- ・人材の確保も困難を極める状況。夜勤可能な人材を確保できず、中間管理職である副主任やサブリーダー等の退職も重なり、組織やケア体制の構築に苦慮する事態。既存職員の心身状態に不安定さが認められる。

年間退所者・新規入所者・入院者数（過去3年間）

	グリーンヒル 看取り退所	医療機関 死亡退所	長期入院	在宅復帰	他施設	退所者合計	新規入所
平成25年度	8	12	2	0	0	22	18
平成26年度	6	9	4	1	1	21	26
平成27年度	9	16	3	0	0	28	28

	入院			
	延べ人数	肺炎	骨折・脱臼	延べ日数
平成25年度	45	16	6	1,534日
平成26年度	58	25	4	1,383日
平成27年度	47	20	5	1,355日

5) 平成 27 年度 特養実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年
月末利用登録者	108	108	105	105	106	107	108	108	109	106	103	106	1,279
入所延日数	3,216	3,348	3,207	3,256	3,279	3,207	3,304	3,225	3,363	3,308	3,068	3,180	38,961
入院延日数	91	44	75	70	110	94	47	112	171	138	184	219	1,355
利用実日数	3,125	3,304	3,132	3,186	3,169	3,113	3,257	3,113	3,192	3,170	2,884	2,961	37,606
1日平均利用者数	104.2	106.6	104.4	102.8	102.2	103.8	105.1	103.8	103.0	102.3	103.0	95.5	103.0
平均介護度	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2
（介護度4・5割合）70%	76.4%	75.9%	79.4%	78.1%	79.2%	80.3%	82.2%	84.0%	85.6%	86.0%	83.9%	85.4%	81.4%
新規入所者数	2	0	1	4	1	3	2	1	3	1	2	7	27
（内介護度4以上）	1	0	1	4	1	2	2	0	2	1	2	7	23
（内認知度Ⅲ以上）	0	0	1	4	1	3	2	1	2	1	1	3	19
退所者数	0	0	4	4	0	2	1	1	2	3	5	3	25
負担限度額認定者	83	82	85	81	59	64	63	62	63	60	61	62	825
短期請求件数	32	29	26	32	34	27	29	25	27	25	22	24	28
短期入所延日数	407	360	365	381	411	371	361	307	242	320	312	362	4,199
特養・短期合計延日数	3,532	3,664	3,497	3,567	3,580	3,484	3,618	3,420	3,434	3,490	3,196	3,323	41,805
特・短1日平均数（予算118人）	117.7	118.2	116.6	115.1	115.5	116.1	116.7	114.0	110.8	112.6	114.1	107.2	114.5
稼働率／120	98.1%	98.5%	97.1%	95.9%	96.2%	96.8%	97.3%	95.0%	92.3%	93.8%	95.1%	89.3%	95.5%
前年度稼働率	97.0%	99.9%	99.9%	99.2%	98.8%	99.1%	98.9%	97.3%	98.0%	98.8%	98.6%	97.4%	98.6%
前年度との比較	1.1%	-1.4%	-2.8%	-3.3%	-2.6%	-2.3%	-1.6%	-2.3%	-5.7%	-5.0%	-3.5%	-8.1%	-3.1%
介護福祉士取得者	33/19	33/19	33/19	33/19	33/19	33/19	33/19	33/19	32/19	31/19	30/19	29/19	

H27 年度事業報告(医務課)

<グリーンヒル>

- ・ H27 年 5 月～H28 年 4 月の入院者の多い月は 8 名であったが、一年間の平均は月に 4、2 名であった。
- ・ 看取りを含め永眠された方は、20 名
- ・ 感染症は、インフルエンザ B 罹患者 1 名
ノロウイルス罹患者 2 名（この 2 名は同一者であり、1 月と 4 月に罹患）
疥癬 3 名（隔離中）他 2 名は予防投与（乾燥による掻痒）
- ・ ノロウイルスの方は、4 月に死亡されたが 1 月からの保菌者であり、老衰期により抵抗力が弱くなり再燃したと考えられこれが死因だったかどうかは考え方次第である。
- ・ 永眠により入居者減のため、可能な限り事前面接し早期に入所していただけるように相談員とも努力・協力した。反面、早く空床を埋めようということばかりに気が向いたこと、事前面接に行けなかったことによって皮膚状態が見れておらず、今回の疥癬の広がりについて防ぐことができなかつたとも考える。
疥癬は、病院を退院と同時の入所で持ち込みであったが、予防の観点からは環境整備・清掃・身体の清潔は必要であると体験（昨年 6～7 月のエアコンの埃が原因と思われる呼吸器症状・発熱）からも学べたと思うので、平素から予防を頭に入れて医務課からの発信事項は実施して頂きたい。

<グリーンヒル八千代台>

- ・ H27 年 5 月～H28 年 4 月の入院者の多い月は 4 名であったが、一年間の平均は月に 2 名であった。
- ・ 看取りを含め永眠された方は、3 名
- ・ 感染症は、インフルエンザ罹患者 1 名（自宅外泊中に御家族からうつり持ち込み）
ノロウイルス罹患者 3 名（ショートステイの方の持ち込み）
- ・ 感染症はすべて持ち込みであったが、嗽・手洗いの基本的なことが疎かになっていたことも事実である。唱えても実施されていなければ予防はできない、起きてからの管理は骨が折れる事なので今後は、実施強化を考えなくてはならない。
ショートステイの受け入れの時は在宅からの情報不足を感じている、施設に来てしまってから、数日前から症状があったとことがわかったり動けなくなつて家族が看れないからショートにと受け入れておくことも多く、対応に困つてしまう例は数々あつた。

具合が悪い場合は、病院受診をしていただくことが先決かと考える。

<人員不足について>

ケアワーカー、看護師共に人員不足だと常に話題になることであるが、業務内容の見直し・整理が必要と感じる。

専門性の部分と誰が行ってもよい部分、毎日必要なことと隔日でもよいことなどの見極めなど細かいことの整理が必要ではないかと考える。多職種コミュニケーションは重要になってくるのではないのでしょうか、協力して改善することで利用者へももっと目が向けられるように変化すると思われる。

本来のリーダーの役割（仕事量ではなく）についての勉強会などがなされることに期待したい。

平成 27 年度グリーンヒル居宅介護支援事業所 事業報告

1. 目標件数に対する実働状況

- ・計画作成件数・・・予防 月平均 17 名
給付 月平均 107 名
- ・新規作成件数・・・予防 6 名
給付 33 名
- ・認定調査件数・・・140 件
- ・その他 加算等があり

2. 平成 27 年度総括

- ・平均計画件数は目標値に届かなかった。
→各地域包括から主任ケアマネ宛に困難と思われるケース依頼が多くあり、ほとんど受託していたが、山田所長が平成 27 年 12 月に発病し療養となってから、新規ケースの受託は難しくなっている状況。
- ・利用者、家族、他事業所からのクレームなく支援できていた。
- ・認定調査は毎月定期的に受託している「佐倉、船橋」の他 今年度から八千代市も受託するようになったため、前年度の倍の件数となっている。
- ・ケアマネ人数を増やすことで、計画件数の増加及び特定加算を継続したい、と考えている。

平成27年度通所介護事業報告

1) 【27年度の状況】

27年度の状況としては、年間通して30名弱の新規ご利用者の方はいましたが、その反面利用中止となるご利用者も多く延べ利用者数としては、なかなか厳しい状況であった。

1日の平均利用者数としては、27名を目標として行っていました。前年度と同様の平均25名と伸ばす事はできず、現状維持の状況となってしまった。

ただ、今年度においては、他事業所のご利用者も割合的には増えていることもあり、引き続き他事業所への訪問等も行い、新規ご利用者の獲得を行えればと考えています。

2) 【28年度の目標として】

前年度の状況を踏まえ、平均27人を目標として頑張りたいと思います。

今年度より、南デイホームが本体デイのサテライト事業所となり、双方の良いところをアピールし、違いのある環境を提供出来るようにしたい。

本体は、学習的なプログラムや継続的にグループケアを行う。

サテライト南デイホームは、少人数で、ゆったりと過ごせる環境で、その人に合った場所作りを行い、平均利用7名を目指し頑張りたいと思います。

平成27年度訪問介護事業報告

【1】 27年度の状況

27年度は、当初月110人目標として行いましたが、職員の退職によりなかなか新規の方を受けきれない状況であったこともあり、実際の平均実績人数として、月92名程度となってしまった。

新規利用者の受け入れはしつつも、サービス回数の多い方などは、なかなか予定が取れず、受けきれっていない状態でもあった。

【2】 28年度の目標

28年度においては、現状職員の増員も考えられず、登録ヘルパーの退職等もあり、今年度の目標値としては、月の目標を95名として職員全体で取り組んでいきたいと考えています。

今年度においても、登録ヘルパーなどの補充を考えたい。

【平成27年度 事業報告】

グリーンヒル八千代台 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

1. 目標稼働(平成27年度)の達成状況 (○数字はH27事業計画の原文)

①稼働率(長期+短期):「月38名以上の稼働」「年間稼働率98%目標」

⇒【達成】月平均38.7名 年間稼働率99.2%

②日常生活継続支援加算の算定継続(46単位/日:ユニット型個室)

⇒【達成】下記要件を算定根拠とし継続。

・新規入所者の内(前12ヶ月)介護度4・5の割合:70%以上

…年平均99.4%(平均介護度4.4)

・新規入所者の内(前12ヶ月)認知症度Ⅲ以上の割合:65%以上

…新規入所者11人中8人(72.7%)

・介護福祉士の資格取得者の保有割合

③看取り介護加算の算定継続

(死亡日1,280単位/前日及び前々日680単位/4日以上30日以下144単位)

⇒【達成】別添資料参照。同意書・プラン・経過記録・振り返りを実施。

④経口維持加算Ⅰの算定(400単位/月)

⇒【未達成】関係書類不備の為。

⑤アセスメント・カンファレンス・ケアプラン・モニタリングの強化

- ⇒【達成】ブルーオーシャンシステムにより作業効率が向上。各専門計画書の個別化、横断的な施設サービス計画書の運用
- ⇒【未到達】介護計画書の運用およびアセスメント・プラン勉強会
- ⑥経管栄養者数：上限 6 名（短期入所者は別）
 - ⇒【達成】現在 4 名
- ⑥介護保険負担限度額認定者数：12 名
 - ⇒【達成】年平均 10 名で推移（H28.3 月：2 段階（7 名）・3 段階（2 名））

2. 今年度の実績

- ①千葉県新採職員研修「体験学習」の受け入れ
 - ・ユニットケア（自分たちのケア）の振り返りの機会となった。
- ②松戸向陽高校「介護実習」の受け入れ
 - ・自分たちの介護技術の振り返りの機会となった。
- ③RC 委員会（ホスピタリティケア）の立ち上げ
 - ・接遇力の向上に繋がり、ホスピタリティケアの導入を行った。
- ④看取りケア反照的習熟プログラムの導入
 - ⇒東京都健康長寿医療センター 島田 千穂博士（保健学）との協働
 - ・「看取り介護後の振り返り」と「次の看取り介護の課題解決」の場として機能。
- ⑤介護職員研修（基礎力養成・実力向上）・スキルアップ研修の実施

3. 次年度の課題

以下 3 点に課題（取り組み不十分）が残ったため、目標として掲げ、改善に取り組みたい。

- ①その人らしさの介護（私たちの介護）に専門性とプライドを持つことができる。
 - ・ユニットケアや認知症ケアなどの知識を深める。
 - ・医療や栄養、機能訓練などの知識を、専門職との協働でケアに反映することができる。
- ②ケアの根拠を理解しチームで共有することができる。
 - ・アセスメント・ケアプラン・24 時間シート・介護計画書・各種記録などを多職種で活用し、ケアの根拠を説明することができる。
- ③経口維持加算 I / II の算定を行う。
 - ・管理栄養士を中心とした多職種協働での取り組みを実施。東京歯科大および訪問歯科より専門的な指示指導・助言を下に経口維持計画書を作成、運用していく。

4. 平成 27 年度の特養・短期の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年
月末利用登録者	27	28	28	27	26	28	28	29	29	29	28	28	27.92
入所延日数	797	866	840	836	815	832	868	853	896	899	840	875	10217
入院延日数	16	42	77	71	39	25	21	75	93	22	27	37	545
利用実日数	761	824	763	765	745	807	847	778	803	877	813	838	9621
1日平均利用者数	25.4	26.6	25.4	24.7	24.0	26.9	27.3	25.9	25.9	28.3	28.0	27.0	26.29
平均介護度	4.5	4.5	4.5	4.4	4.5	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.43
(介護度4・5割合)70%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	96.7%	96.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.4%
新規入所者数	1	1	0	1	0	2	0	1	2	2	0	1	11
(内介護度4以上)	1	1	0	1	0	1	0	1	2	2	0	1	0.83
(内認知度Ⅲ以上)	0	1	0	1	0	1	0	1	1	2	0	1	8
退所者数	1	0	0	2	1	0	0	0	2	2	1	1	10
負担限度額認定者	10	10	10	10	8	10	10	10	10	11	11	10	10.00
短期請求件数	21	24	20	29	22	24	25	24	21	18	20	19	
短期入所延日数	407	383	387	441	435	340	362	382	383	333	319	371	4543
特養・短期合計延日数	1,168	1,207	1,150	1,206	1,180	1,147	1,209	1,160	1,186	1,210	1,132	1,209	14,164
特養・短期1日平均数	38.93	38.94	38.33	38.90	38.06	38.23	39.00	38.67	38.26	39.03	39.03	39.00	38.70
稼働率	99.8%	99.8%	98.3%	99.8%	97.6%	98.0%	100.0%	99.1%	98.1%	100.1%	100.1%	100.0%	99.23%
前年度稼働率	99.9%	99.9%	96.4%	100.0%	100.0%	97.9%	98.2%	97.5%	97.4%	97.8%	96.4%	100.2%	98.50%
前年度との比較	-0.1%	-0.1%	1.9%	-0.2%	-2.4%	0.1%	1.8%	1.6%	0.7%	2.3%	3.7%	-0.2%	0.73%
介護福祉士取得(非常勤含む)	21/5	21/5	21/5	21/5	21/5	21/5	21/5	21/5	21/5	21/5	22/5	22/5	

以上

資料

第1表 稼働率など（前年度比）

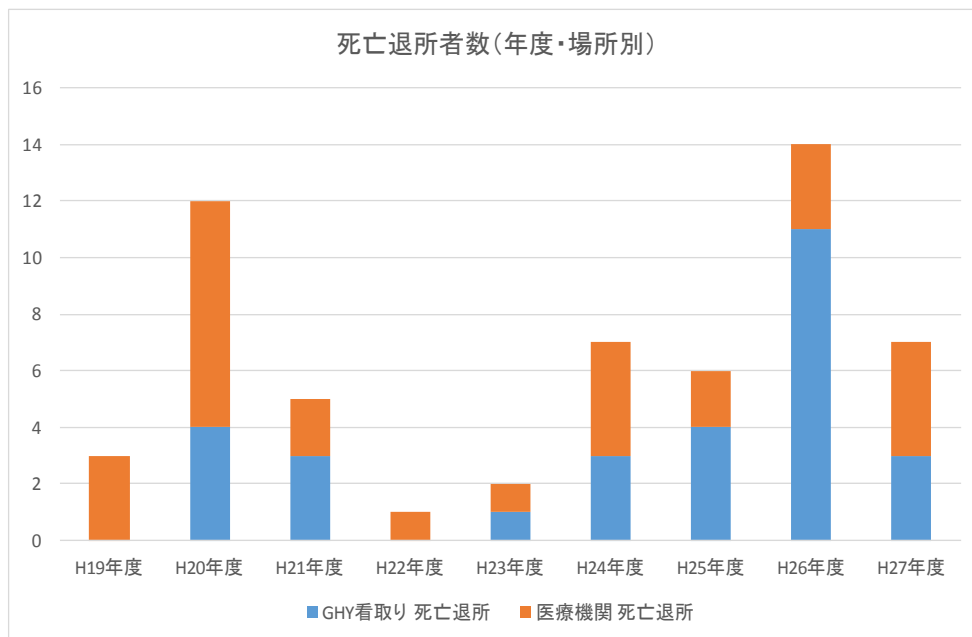
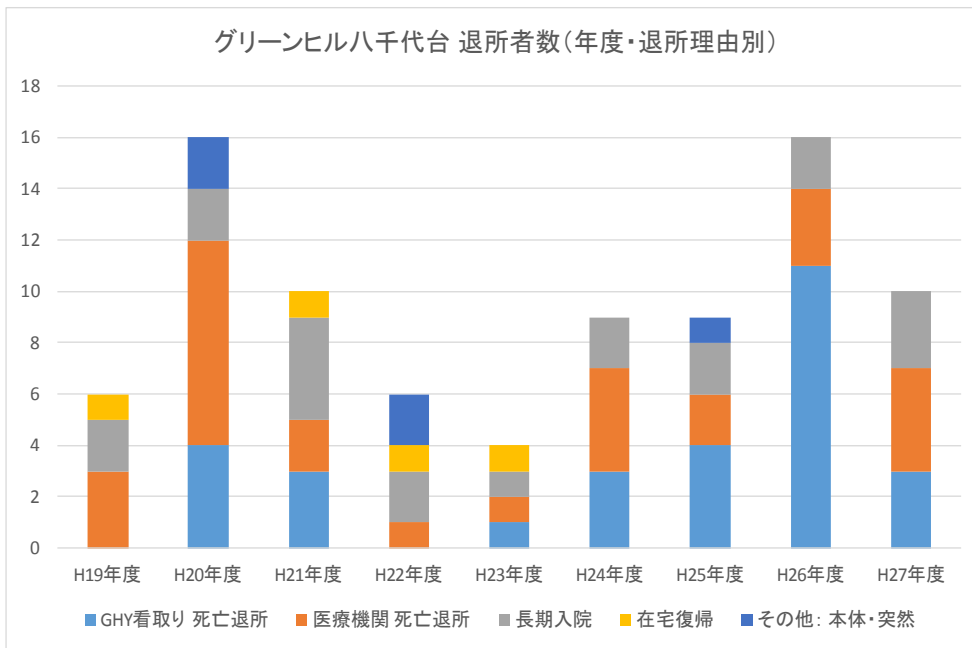
	LS	LS+SS	新LS	LS退	介護度(4・5割合)	限度認定	稼働率
平成26年度	26.0	38.5	14	13	4.4(90.5%)	10/29名	98.70%
平成27年度	27.9	38.7	11	10	4.4(99.4%)	10/29名	99.23%

第2表 入院者数の推移（前年度比）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数	延日数	入院⇒永眠	入院3ヶ月越
H26年度	1					3	1	1	3	3			12	237	2	3
H27年度	入院	1	1	3	3	1	2	1		2	1	2	17	545	4	
	長期入院						1	1					2			2

第5表 看取り介護等の履歴（開設当初より）

	GHY看取り 死亡退所	医療機関 死亡退所	長期入院	在宅復帰	その他: 本体・突然	合計			
H19年度	0	3	2	1	0	6	H19.10.1	～	H20.3.31
H20年度	4	8	2	0	2	16	H20.4.1	～	H21.3.31
H21年度	3	2	4	1	0	10	H21.4.1	～	H22.3.31
H22年度	0	1	2	1	2	6	H22.4.1	～	H23.3.31
H23年度	1	1	1	1	0	4	H23.4.1	～	H24.3.31
H24年度	3	4	2	0	0	9	H24.4.1	～	H25.3.31
H25年度	4	2	2	0	1	9	H25.4.1	～	H26.3.31
H26年度	11	3	2	0	0	16	H26.4.1	～	H27.3.31
H27年度	3	4	3	0	0	10	H27.4.1	～	H28.3.31



平成27年度 グリーンヒル八千代台居宅介護支援

事業報告書

1. 事業所名称

社会福祉法人 翠燿会

グリーンヒル八千代台居宅介護支援

2. 運営の方針

- ・当事業所の介護支援専門員は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう配慮を行います。
- ・事業の実施は、利用者の選択に基づき、多様なサービス事業所から総合的・効率的に提供されるよう配慮を行います。
- ・事業は、常に利用者の立場に立ち、公正中立に行います。
- ・事業の運営に当たっては、関係市町村、サービス提供事業者等との綿密な連携に努めます。

3. サービスの内容

- 1) 利用の申込相談
- 2) 居宅介護支援事業所の内容説明
- 3) 契約締結
- 4) 要介護認定の確認（未申請の場合は申請手続きの支援）
- 5) 訪問調査
- 6) 居宅サービス計画の作成・説明及び同意
- 7) 居宅サービスの提供
- 8) 居宅サービス実施内容の経過観察、再評価
- 9) 次回要介護認定手続きの支援

4. 利用対象者

要支援、要介護の介護認定を受けた、介護保険証を所持の方

5. 営業日時

平日 午前8時30分から午後5時30分

祝日 午前8時30分から午後5時30分

休業 土曜・日曜および12月31日から1月3日

6. 利用定員

要介護認定者 約95名

7. 職員配置

管理者 1名（兼）常勤専任 3名 常勤兼務 1名

8. 会議

定例事業所会議 毎月第2火曜日 午前 9時00分より ※開催日変更あり

9. 行事等

併設、特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所等の行事支援

10. 研修等

介護支援専門員現任研修、認定調査員研修、やちよケアマネネットワーク開催研修、関係機関開催研修に参加

平成27年度 グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業所 稼働状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月
88	90	93	95	97	97
* 2	6	6	4	4	4
** 3	5	4	1	3	4
10月	11月	12月	1月	2月	3月
97	96	99	91	94	90
* 6	3	6	3	3	2
** 6	4	4	9	2	6

*印 新規利用者

**印 休止・中止利用者

グリーンヒル八千代台 小規模多機能型居宅介護

【平成27年度 事業報告】

1. 目標

平成27年度の小規模多機能については、目標値である25名登録以上については、

年間平均 27 名（稼働率 96.1%）と、想定以上の数値をだすことができました。常に利用者数の一定化を意識し、地域住民に密着した生活の支援・利用者及びご家族の満足度に重点置きながら行なってきた結果だと考えている。

しかし、労働時間の多様化に伴う職員シフトの複雑化や利用定員枠の拡大に伴う必要職員数増員によって組織の拡充につれて、組織効率が悪化する宿命を持っているゆえに、組織を健全に保つ絶えざる取組みが急務となっている。組織の欠陥症状として①「階層の増加による情報伝達の劣化と人材育成の長期化の問題」②「組織そのものの存在が問題を生み出すという問題」③「形式に拘泥した所管と手続きの複雑化・硬直化の問題」④「会議の増加による責任の所在の不明化と非効率性」⑤「機械的な仕事の細分化からくる調整事項の増加」⑥「年中の組織改革」が挙げられる。各サービスによって成長の仕方は異なり、それぞれの成長の仕方に応じて組織構造が設計されるべきである。「組織は戦略に従う」という命題＝「組織の前にまずは戦略をしっかりと検討する」ということが必要であり法人本部との協働による課題解決が必要と考えている。

2. 内容

① 小規模多機能稼働率向上の取り組み

・部署間(特養・SS)の接点業務と介護業務の統合、サテライト事業との協働体制、本帳票の基準化等をおこない「八千代台小規模」「勝田台小規模」の業務遂行が同じ手順でおこなわれるようにすることにより連携をとりやすくことが不可欠である。今後も通い・泊まり・訪問等、利用者の在宅生活を包括的に支える体制を構築すべき、配食・地域コミュニティ(プログラムの一部開放・地域主体型サークルへの協力等)との協力関係などが出来る様になっていくことが稼働率の維持・向上に繋がっていくものであると確信している。(社会参加・柔軟なサービス対応)

② 人員配置とサービスの質

・職員の人員配置上は問題ないが人材資源不足及び定員の拡充により、サービスの質を維持していくことに苦慮しているが、27年度より「看護職員配置加算」「訪問強化加算」等の算定施設になった。引き続き人員基準を下回ることがないように適正配置される必要がある。

・業務をシンプルにし、簡略化することで組織を収益に直結した業務に集中させることを目的する必要性がある。

・「企業は人なり」と言われるように組織において大切な人材を見間違えると組織の崩壊を招きサービスの質を低下させてしまうため、事業活動の成否の分岐点だと言っても過言ではないので引き続き法人本部との協働による課題解決が必要である。

③ サービス提供について

- ・壁面工作など季節ごとに進められ「季節を感じられていい」という声がある。一方で工作や体操などに対して、興味の無い方や参加が難しい方へのメニューや声かけ、支援方法の検討が必要である。
- ・個々のリハビリ・ストレッチは時間や人員の関係上で難しさを感じる時がある。今後は、PT と密に情報交換をし、継続実施を目指す必要性がある。
- ・メリハリをつけるため地域交流室の空いている日は移動し、11時から30分ほどを全体体操の時間として活用も継続していく。
- ・シフト別で業務の分担・明確化を行なってきたが、仕事を固定化してしまうことで、知らない仕事が出来てしまっていた。職員間での声かけ・連携不足や1日の流れが円滑になるような分担の見直しが必要である。
- ・日々変化のある状態・状況の中で、徹底していく難しさはあるが、今後も「発信」・「受け取り」共に意識を持ち、各自でも情報を取り入れる努力をして全体で情報共有・把握に努めていきたい。

3. 平成 27 年度の稼働表

平成27年度のグリーンヒル八千代台の小規模多機能居宅介護の報告													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
月末登録利用者数	26	28	27	27	28	28	28	27	29	29	29	29	27.92
訪問平均回数/週	2.92	2.85	2.85	2.73	2.45	2	2.27	2.69	3.19	3.12	3.26	2.82	2.7625
通い平均回数/週	3.25	3.18	3.34	3.15	2.8	3.18	2.43	3.06	2.81	2.27	2.71	2.73	2.90917
泊まり平均回数/週	1.13	1.02	0.95	0.97	1.11	0.99	0.78	0.97	1.07	0.75	0.97	0.88	0.96583
訪問回数/月	345	354	332	335	297	241	290	365	392	401	293	356	333.417
利用回数計	795	876	833	840	779	742	677	862	869	792	835	882	815.167
当該月日数計	760	868	815	856	855	840	861	861	859	899	841	882	849.75
利用者一人当たり平均回数/週	7.32	7.06	7.15	6.86	6.37	6.18	5.5	7	7.08	6.16	6.95	6.44	6.6725
平均介護度	2.9	2.9	2.6	2.9	2.9	2.6	2.7	2.7	2.6	2.5	2.6	2.6	2.7
新規利用者数	2	2	0	1	3	1	1	0	2	1	1	2	1.33333
登録中止利用者数	0	0	1	1	2	1	1	1	2	1	1	2	1.08333
稼働率	87.4%	96.6%	93.7%	95.2%	95.1%	96.6%	95.8%	99.0%	95.6%	100.0%	100.0%	98.1%	96.1%
前年度稼働率	94.3%	100.0%	94.1%	92.8%	96.0%	100.0%	93.7%	96.0%	95.0%	95.5%	94.3%	94.3%	95.5%
前年度との比較	-6.9%	-3.4%	-0.5%	2.4%	-0.9%	-3.4%	2.1%	3.0%	0.6%	4.5%	5.7%	3.8%	0.6%

以上

小規模多機能型居宅介護サテライト グリーンヒル勝田台

【平成 27 年度 事業報告】

1. 目標

平成 27 年度のサテライトについては、27 年度平均介護度 1.6 であった。目標値である年間平均 12 名登録<目標稼働率 100%>については年間平均(稼働率 100%)という結果を出せ安定的に稼働が継続していくことができた。また、当初から予定していたサテライト事業として本体へのケース移行など安定して行なう役目を果たすことができ、本体(八千代台)が稼働率 96.1%となり昨年度に引き続き本体事業の安定化に寄与する役割を果たせていると考えている。

在宅福祉サービスは増えているがその水準及び利用状況は多くの課題があり、重度の障害者や寝たきりの高齢者及び認知症の方々の生活を十分に保障するものにはなっていない。

今後自事業所のみでは対応ではなく単に公的・私的介護の支援の充実のためだけでなく、高齢者等の社会的参加を促進し、介護ネットワークの構築という側面から促え直される必要があると考えより柔軟に・迅速に対応できる組織づくりが早急に必要となっている。しかしながら、安定的人員配置が行われない現状や人事制度のあり方など人材育成上の課題が山積している。「課題解決のための型」(ソリューションフォーマット)といえるような標準的なものが必要であると考えられる。

2. 内容

① 小規模多機能稼働率向上の取り組み

・本体であるグリーンヒル八千代台との連携体制を整えていくと共に、中長期的な要介護状態の重度化の過程を把握することが求められている。安心を身近に感じられ、また、即時対応が可能となるよう、医療サービスなど地域の他のサービス資源を活用しながら在宅を支えるサービス拠点として地域のネットワークの中での『勝田台地域包括支援センター』と連携を図りながら事業展開を行い、通い・泊まり・訪問等、利用者の在宅生活を包括的に支える体制を強化し、配食・地域コミュニティ(プログラムの一部開放・地域主体型サークルへの協力等)との協力関係などがネットワークになっていくことが稼働率の維持・向上に繋がっていくものであると確信している。(社会参加・柔軟なサービス対応)

・地域行事(勝田台フェスタ・消防訓練・自治会のイベント(餅つき・かくし芸大会)・勝田台ステーションギャラリーの作品展示・地域サークル)の参加、毎月の外出企画・お楽しみ会・誕生会・手作りおやつ・リクエストメニューや年間行事(納涼会・敬老会・クリスマス会・餅つき)など利用者の希望や要望を活かせるよう調整をおこない年間を

通し、季節折々の地域活動や行事活動に参加することが出来た。

② 人員配置とサービスの質

・サテライトにおいては現行の人員配置を維持しながら、訪問を中心とした通い、泊まり等のサービス展開がなされていくことが課題であり稼働率の向上へのカギとなると考察している。

・日々変化のある状態・状況の中で、徹底していく難しさはあるが、26年度後半から情報共有の方法を見直し、引き続き「情報の共有」について全体で意識を高めていけるよう努力していくことが重要であると考えている。

・訪問強化加算・総合マネジメント加算算定施設として、多職種連携会議を実施しより一層の情報共有及びサービスへの実行への正確性と迅速性を高めていくことが必要と考えられる。

・職員の移動や休職があり、利用者から「職員が始終変わる」と不安や心配の声が聞かれた。職員の体制安定が必要と思われる。

③ サービス提供について

・利用者を知りはじめて、自分たちは何をどのように仕事を進めていけばいいのかがわかり、何をどのように支援すれば喜んでいただけるのか、がわかる。こうしてはじめて、自分たちが対象とする利用者から選んでいただけるようになる。

・業務に追われ、職員間のコミュニケーションや情報の共有が図れず、連絡の不備が生じることがあった。朝の申し送り・連絡帳の活用や業務分担表の確認・業務日誌の記入や確認など再度見直しや検討を要する。

3. 平成 27 年度の稼働表

平成27年度のグリーンヒル勝田台の小規模多機能居宅介護の報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
月末登録利用者数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12.00
訪問平均回数/週	6.88	4.57	5.03	5.64	6.24	5.95	6.6	6.34	6.89	5.82	5.89	6.07	5.99333
通い平均回数/週	2	1.54	1.61	1.44	1.75	1.99	2.04	1.89	2.52	1.84	2.23	3.37	2.01833
泊まり平均回数/週	0	0	0	0.05	0	0	0	0.33	0.23	0.69	0.76	0.05	0.17583
訪問回数/月	318	243	259	300	332	332	351	322	320	303	293	6.07	281.589
利用回数計	457	325	342	380	425	443	460	435	448	435	442	452	420.333
当該月日数計	360	372	360	372	372	390	372	355	325	364	348	372	363.5
利用者一人当たり平均回数/週	6.88	6.11	6.65	7.15	7.99	7.95	8.65	8.57	9.64	8.36	8.89	8.5	7.945
平均介護度	1.0	1.0	1.4	1.4	1.2	1.5	1.7	1.7	2.10	2.0	2.0	1.7	1.6
新規利用者数	1	0	0	1	1	1	0	1	2	1	0	1	0.75
登録中止利用者数	1	0	0	1	1	1	0	1	2	1	0	1	0.75
稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
前年度稼働率	100.0%	100.0%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	91.7%	91.7%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	97.3%
前年度との比較	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%

以上

【 平成27年度 事業報告 】

グリーンヒル八千代台 訪問介護

1. サービスの重点目標

1) 地域のご利用者が、安心して在宅で過ごせるよう、訪問介護サービスによる生活支援を

展開する。また、サービスの質を確保するため、『サービスマニュアル“ハート・トゥ・ハート”』を活用し、点検する。

2) ケアプランに沿った訪問介護計画・援助計画に基づく、統一したサービスを提供する。

3) 正確で速やかな情報伝達・報告に努める。

2. サービスの内容

- 1) 介護サービス（身体介護・生活援助）
- 2) 介護予防サービス
- 3) ホームヘルプサービス（八千代市委託事業）
⇒要介護認定もしくは要支援認定をされなかった、概ね 65 歳以上の方が対象

3. 利用対象者

- ・要支援・要介護認定において、要支援 1・2 または要介護状態であると認定された
高齢者

4. 営業日

- ・月曜日から土曜日まで
- ・8:30～17:30 までを基本とし、利用者のニーズに対応するため、営業時間外についても柔軟に対応する。

5. 年間目標数値

- ・1 か月目標 55 名

6. 職員配置

- ・管理者 0.5 名、サービス提供責任者 1.5 名、訪問介護員 9 名

7. 会議

- ・定例会議及び研修会・・・・・・・・・・毎月末日 9:00～10:00、中旬 12:00～13:00
- ・グリーンヒル指定訪問介護との合同会議・・・随時
- ・施設全体会議・・・・・・・・・・・・・・・・奇数月 18:00～19:00

以上

【平成27年度 訪問介護利用者状況】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
52	52	50	50	51	48
予 26	27	27	27	26	25

介 26	25	23	23	25	23
10月	11月	12月	1月	2月	3月
49	43	41	40	42	44
予 26	23	19	19	18	20
介 23	20	22	21	24	24

平成27年度 グリーンヒル八千代台南デイホーム 事業報告

1. 運営状況

- 利用者の登録人数13名（3月現在）、一日の平均利用者は7.7名で目標の8名を達成できなかった。10月までは順調な状況だったが、11月ごろから、体調不良のご利用者が続き、補充が間に合わずに年度が終了した。
- 年度末には、生活相談員の交代もあり、新規利用者の獲得にいたらなかった。
- 今年度で、単独の小規模デイは終了となり、来年度からは、グリーンヒルデイサービスのサテライト型事業所となり、再出発となる。

2. サービスの目標達成状況

- 基本方針：法人理念「グリーンヒルの心」を実現する。
- ご利用者一人ひとりの“PDCAサイクル”を徹底する。
 - 毎月の会議にて、サービス内容が実施できているか、確認・見直しを行ない、再度計画し、実行することでPDCAサイクルを実施した。
 - グリーンヒル八千代台南の運営推進委員会に出席し、地域の声を聴くことができた。また、介護保険外の活動として「南元気クラブ」を継続した。
 - 職員間の関係を保ち、チームケアができるようOJTを実践した。

3. 企画行事報告及び会議の実施状況

- 誕生会
- 外出・行事
 - ・いちご狩り外出、京成バラ園外出、敬老会、花の美術館外出

- ・クリスマス会、もちつきに参加、成田山初詣外出、その他近隣の公園等に外出
- 料理作り・手作りおやつ
- 南元気クラブの状況 毎週水曜日 13:30~16:00
- 南デイ会議（毎月1回）実施、グ八千代台事業所会議（毎月2回）に参加。

4. 課題と今後の方針

- 利用者1日7名稼働。
- 引き続き「チームケア」を実施していく。
- グリーンヒルデイサービス（本体）と良い関係を築き、大きなチームとして連携を図っていきたい。

以上

グリーンヒルキッズ【平成27年度 事業報告】

1. 目標について

平成28年3月1日、グリーンヒルキッズ開設。児童福祉法に位置付けられた放課後等デイサービスは、学校に就学している子どもたち（グリーンヒルキッズでは軽度発達障がいの小学生のみを対象）に、授業の終了後または休業日に生活能力向上のために必要な訓練、社会との交流の促進などを提供するものである。グリーンヒルキッズでは、子ども、保護者がともに安心できる明るい空気感の中で、遊びを通じた療育活動、運動活動、学習活動、音楽・創作活動、体験活動などの支援をおこない、子どもの生活能力向上をめざすことを目標とする。開設から1ヶ月、八千代市内小・中学校や幼稚園・保育園における実態把握と八千代市教育委員会・児童発達支援センター・ことばと発達の相談室・社会福祉協議会・八千代市役所障害福祉課・子ども元気課・子育て支援課などの行政機関に対して、グリーンヒルキッズの案内・周知に努めた。4月からの新年度に向け、安定した経営が展開できるよう、事業体の質の強化を図る所存である。

2. 内容について

稼働率向上の取り組みについて

グリーンヒルキッズが対象としている発達障がい児は、現在、全体の6%との統計がでていいる。発達障がい児は、1クラスに1~2名ほどは存在するであろうといわれる現状があるが、保護者の意識を促すことが難しく、担任をはじめとする学校関係者と保護者との信頼関係によるところが大きい。グリーンヒルキッズでは、上記に挙げた各関係機関との連携を密に図り、より専門的な支援をおこなうことを、自信を持って周知する必要があると考える。利用にいたるには、療育手帳や受給証が必要である

ことから、すでにそれらを取得している支援学級への案内・周知も、さらに勧めていく必要があるであろう。支援学級の児童に対しては、相談・面接時において子どもの状況を的確に把握しなければならない。

3. サービス提供について

グリーンヒルキッズの質の向上が、サービスの提供向上につながると考える。

① 子ども・保護者との信頼関係構築

何より大切なことは、「グリーンヒルキッズに行きたい！あずけて安心だ！」と提供していただくことである。そのためには、職員自らが、自分の感性を高め、子どもの興味に共感し認めほめること、子どもの喜びを共有すること、楽しく明るいエネルギーを持ち続けることが必要である。それにより、子どもにとってグリーンヒルキッズは、居心地のよい場所となり、保護者は気楽に相談したり話をしたくなる人間関係・信頼関係が構築できるであろう。

② 職員のスキルアップ

現在の職員は3名とも有資格者であり、子どもとの関わり経験があるが、発達障がい分野の知識・スキルはまだ未熟である。日々の事例をもとに研修を重ね、職員全体で情報を共有し、知識向上・スキルアップにつなげたい。そのためには、一人ひとりの子どもの状況を把握できる書類の作成とその管理体制を整える必要がある。

平成27年度 勝田台地域包括支援センター事業報告

1. 勝田台高齢者人口状況

平成27年10月末 八千代市の人口 194,963人 高齢化率 23.8%

勝田台生活圏域 16,226人、高齢化率 34.3%となっており、平成27年度に死亡した高齢者は110人を越えている。勝田台地域の高齢化が急速に進んでいると思われる。

現状から老々世帯や独居世帯も多くなることから医療・介護の相談も増加していくと予測される。

2. 事務所来所者状況

地域包括支援センターに1年間来所した人数 1,728人の来所実績となっている。

1日7人以上の方の来所がある。相談者が同時間帯に重なることもあり、事務所が手狭でありプライバシーを尊重した対応になっていない時もあり対応に苦慮している。

3. 総合相談事業実績

1年間の相談数 2,126件 (内訳 電話 1167件・来所 528件・訪問 390件・

その他 41 件) となっています。主な相談内容①介護保険に関する相談 (943 件) ②医療・健康に関する相談 (246 件) ③認知症に関する相談 (260 件) ④介護に関する相談 (195 件) となっている。

虐待通報 5 件 (延べ対応 170 回) 個別地域ケア会議 38 回開催。

最近は、成年後見制度の相談も増加傾向にある。

4. 二次予防事業実績

平成 27 年度二次予防事業は廃止となっており、平成 27 年度前半に平成 26 年ハイリスク者で事業に参加できなかった方を対象に実施。参加者 27 名の参加者に対応した。

5. 一次予防実績

全 12 回開催。運動プログラム及び認知症予防について予防教室を開催。

6. 包括的・継続的ケアマネジメント事業実績

①認知症サポーター養成講座開催・・・4 回開催

- ・民生・児童委員対象・・・22 名
- ・サンコーポ自治会対象・・・24 名
- ・勝田台支会及び住民対象・・・24 名
- ・レストヴィラ職員及び住民・・・17 名

②認知症に関する講演・・・3 回開催

- ・ファミリーハイツ自治会・・・15 名
- ・創年いきいき教室・・・25 名
- ・お番茶の会・・・10 名

③地域包括支援センターの啓蒙・・・4 回

- ・七和会 (老人会)・・・24 名
- ・2ND ステージOB 会・・・13 名
- ・勝田台自治会・・・34 名
- ・民生・児童委員・・・22 名

④地域ケア会議 (個別ケース会議)

⑤その他

- ・勝田台元気クラブ (地域包括主催)

4 月~3 月 12 回開催・・・参加延べ人数 393 人 (1 回平均 32 人程度)

平成 27 年度は、偶数・奇数などのグループ分けをしなかったため多くの参加者を得ることができた。参加者は脳トレプログラムに関心を持っており楽しみにされている。

- ・勝田台サロン (勝田台支会主催) 月 2 回・ちよこっとサロン等とも連携しながら情報交換などを行っている。

- ・三世代交流夏祭りファミリーフェスタ勝田台

- ・八千代高校合同企画クリスマスイベント・・・在宅訪問約 100 件プレゼント配布

- ・勝田台食まち料理教室・・・グリーンヒル八千代台協力

- ・さるぼぼ手芸サロン・・・グリーンヒル八千代台 (サティライト) 協力

- ・社会福祉士取得のための実習受け入れ・・・4 名 (十文字大学・江戸川大学総合福祉専門学校・東京成徳大学)

7. 地域連携のための会議

- ・運営推進会議
 - ①小規模多機能型居宅介護サテライトグリーンヒル勝田台運営推進会議・・・隔月開催参加
 - ②ニチイケアセンター八千代勝田台・・・隔月開催参加
- ・民生・児童委員定例会議・・・毎月定例会参加

8. 介護予防（要支援1. 2）プラン作成数 実績

1年間の請求総数 1768件 地域包括延べ請求数 949件 委託延べ請求数 819件
 1年間の新規55人となっている。3月実績では対象者166件（地域包括88件・委託78件）となっており、高齢化が進むことで徐々に介護認定者増加傾向になってきている。地域包括支援センターは、職員1人当たり担当30人までと制限があり、委託事業所探しに苦慮している。また、委託対象者の人数が増加することで事務作業の負担も増えてきている。

平成27年度 総務課 事業報告 総務課

- I 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）に対する、有効活用・経費削減・経営状態の把握を通じて適正管理を行う。
- II 「仕事と家庭の両立支援」「メンタルケア」に対する取り組みを行い、職員の処遇向上を図る。
 - I-1 「採用・育成・健康（ヒト）、情報」の適正管理
 - 昨年度実施した接遇研修に、新たにホスピタリティケアの実践を組み入れた研修を担当者間で連携しながら実施し、職員の接遇力向上を図る。
⇒H27 外部講師によるリーダー研修の内容をもとにH28.4より実施済み
 - 職員研修及び障害者雇用に対する助成金・報奨金を獲得する。

* 目標獲得額	2,400,000円	(平成26年度実績 3,247,000円)
特定求職者雇用開発助成金（高齢者）（2名）		750,000円
キャリア形成促進助成金（H26研修費）（3コース30名）		490,000円
キャリアアップ助成金（H26研修費）（2コース20名）		950,000円
障害者関連報奨金（法定雇用率超過分）		210,000円

 ⇒目標獲得額実績（2,457,380円） 高齢者分増額
 - 生活習慣病検診（協会けんぽ）の周知を図り、予防及び早期発見の意識づけを図る。
* 目標受診者 一般検診 25名以上（平成26年度 16名受診）

⇒一般検診実績 24名受診 (3名体調不良により予約取消し)

○マイナンバー制度導入 (H27.10~通知予定) に対応した個人情報の管理を徹底。

⇒専用PCによるシステム管理、個人情報管理用キャビネット設置済み

I - 2 「物品 (モノ)」の適正管理

○文房具の在庫管理の徹底を図る。

⇒多岐にわたる品目の精査に時間がかかり、目標未達の為次年度へ継続

I - 3 「資金 (カネ)」の適正管理

○消費税増税による経費の影響を把握し、日常の経費を見直す。

⇒日常の生活用品 (日用品) の価格を複数の業者より比較検討し見直しを行った。

○介護サービスの事業ごとに食費等の実費の価格を見直し、消費税10%に備え適正価格を算定する。

⇒介護サービスの事業ごとに、食費等の実費の価格を見直し適正価格に変更した。

○月ごとに予算管理、収支状況の把握・報告を行い適正な経営状態を目指す。

⇒毎月の予算管理、収支状況の把握に努め管理運営会議で報告し検討した。

II ○男性の育児参加を促進するため、今年度に就業規則の検討および改訂を行い育児休業取得に結び付ける。

⇒特別休暇に有給の出産休暇を設定し就業規則の改訂済み

○H27.12~メンタルヘルスに関するストレスチェック義務化に向けての情報収集および対策を講じる。

⇒説明会等に参加し情報収集したのち2か所から見積もりをとりH28.10実施予定

以上